

# 終戦の詔（現代語訳）

現代誤訳 藤 鈴鍋

私は深く、世界を大きく見渡してみた状況と日本の今の状況を照らし合わせて考え、いつもはしない特別の方法をもって、今の状態をよくしようと思ひ、誠実で正直なあなたがた日本国民にお知らせする。

私はアメリカ、イギリス、中国、ソビエト連邦の四方国に対して、それらの国々からの共同宣言（ポツダム宣言）を受け入れることを、日本政府に通告させた。

そもそも、日本の国民の暮らしがおだやかで平和であることを祈り、世界の国々と共に栄えていく喜びを共にすることは、天皇家と日本国民のご先祖様である神々様が願ひ続け、手本として示してこられたことであつて、私自身もいつも忘れず、何よりも大切なことと守りとおしてきたことである。

前にアメリカ、イギリスと戦争を始めた理由も、日本の国が独立した国として生き続けていくこと、東アジアが安定した状態になることを強く望んでいたからであり、他の国の人々の大切な権利を取り除いたり、その国の領土を侵略したりするようなことは、言うまでもなく私の思いではなかった。

ところが戦争を始めて四年がたち、私の兵士の勇敢な戦ひ、私の臣下たちの努力、私の一億の国民の奉公、それぞれ最善をつくしたにもかかわらず、戦争の状況は良くならないばかりか、世界の状況も日本にとって良くなる見込みのない状態である。

そればかりでなく、敵は新たに残酷なる爆弾（原子爆弾）を使用し、絶えず何度も、罪の無い国民を殺し、傷つけ、被害がどこまで続くかわからないほどである。

それにもかかわらず戦争を続けたとしたら、最後には日本の民族の滅亡ということになってしまふだけではなく、人類の文明もやぶりすててしまふことになる。

そのようなことになってしまつては、私はどのようにして、億兆の私の子供である日本の国民をまもり、天皇家や日本の国民のご先祖様である神々様におわびすればよいのであろうか。

これが私が日本政府に共同宣言を受け入れるように命じた理由である。

私は、日本と共にいつも東アジア諸国の（西欧諸国支配からの）解放に協力してくれた各国にたいして、おわびの気持ちをあらわさなければならぬ。日本国民に対しても、戦死したり、殉職したり、天から与えられた命のその半ばで死んでいった国民たち、そしてその残された家族のことを思うと、わが身がひきさかれるような思いになる。

それだけではなく、戦いにより傷をおい、戦争による災害にあい、職業を失つた人々の暮らしについても、とても心配している。

思うに、今後日本が受ける苦しみは、言うまでもなく、なみたいでないことではない。

あなた方日本国民のまごころは、私もよく知っている。

しかしながら、私は時代の流れの中で、たえきれないことにもたえ、がまんできないことにもがまんをし、将来の平和に栄えた世の中を作るための扉を開こうと思う。

私はここに、日本のあるべき姿を守り、誠実で正直なあなた方日本国民のうそのないまことの心を信じて、いつもあなた方と共にある。

もし、あなた方がはげしい感情のままに、むやみに事件を起こしたり、あるいは国民同士でだましあい、おたがいに世の中を乱れさせ、そのために人としての生きる道をあやまって、世界の人々からの信用を失うようなことがあるとしたら、それは私がつとも禁ずることである。

どうか国じゅう、家じゅう、子孫にまでこの私の思いを広く伝え、神の国である日本の不滅をかたく信じ、その責任は重くその道のりは遠いことを思い、持てる力はすべて将来の建設にむけ、心をこめて人としての生きる道を正しく歩み、かたく守って変えない志をしつかり持ち、「日本のお国柄の美しい花」を高く表して、進歩発展す

る世界からおくることがないようにという決意を持ってほしい。  
あなた方国民よ、どうか私の心を理解し、実践してほしい。